

# 文化服装学院 学校関係者評価委員会 報告書

---

(評価対象年度：2024 年度)

文化服装学院 自己点検・評価委員会

2026 年 1 月 13 日

## 目 次

1. 報告書骨子	2
2. 学校関係者評価委員	2
3. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価 に対する総評	3
4. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価 への提言	
1) 教育理念	4
2) 学校運営	5
3) 教育環境	8
4) 学修支援	11
5) 教育活動	14
5. 学校関係者評価を受けて	23
6. 学校関係者評価委員会開催日程	24

## 1. 報告書骨子

学校関係者評価委員会（以下、当委員会）は、文化服装学院学校関係者評価委員会規程に基づき、平成25年4月1日に設置した。当委員会は文化服装学院（以下、本学院）の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として組織した。

当委員会は、本学院の自己点検・評価を基に、関係教職員との具体的な意見交換を通して、本学院の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。

当委員会委員は外部委員のみで構成され、本学院の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から学院長が選考し、委嘱している。委嘱された委員は下記のとおりである。

2025年度は、2024年度の本学院の取組みに対し、当委員会としての評価・助言をいただいた。本報告書はその評価・助言をまとめ作成したものである。本報告書に記載した評価・助言は、具体的な事項であり、本学院の発展に資するという考え方に則り、過度に要約することなく記載している。

本報告書の作成にあたり、当委員会の委員の方々には、お忙しいところご尽力いただき、改めて深く感謝申し上げます。

## 2. 学校関係者評価委員

委員長	澤田 勘志（株式会社 MORI パーソネル・クリエイツ 代表取締役社長）
委員	木島 広（株式会社フクル 代表取締役／本学院卒業生）
委員	岡本 真理子（コロネット株式会社 経営企画室 室長付）
委員	小湊 千恵美（株式会社レコオーランド ファッションディレクター コレクション担当／本学院卒業生）
委員	前川 祐介（株式会社エアークローゼット 取締役副社長）
委員	河邑 陽子（株式会社織研新聞社 本社編集部 学校担当リーダー）

### 3. 学校関係者評価委員による文化服装学院 自己点検・評価に対する総評

2023 年に迎えた 100 周年という節目を超え、2024 年度の自己点検・評価は、新たな時代のファッション教育を見据えた目標の設置、そしてその活動が多く見られた。そして、それらを客観的に捉えた点検・評価もなされており、それぞれの組織、教職員が日々の活動に向き合い、改善に努めていることが伺えるものであった。

「国際的な共創教育」「ファッションを通して持続可能な社会へ価値を提供できる人材育成」という教育理念に基づき、様々な教育活動がなされている。4 つの専門分野に特化した課程のカリキュラムにおいては、常に検証と改善を繰り返しながら、時代に即した教育の追求がなされている。その教育活動を支える環境の整備、学生支援といった各取組において充実を図り、常にアップデートをしながら進められている。

近年は学生や保護者からのニーズは多様化し、きめ細かいサポートが必要となっている。学生個人が抱えるさまざまな問題のほか、最近では経済的な不安を抱える家庭も少なくないため、国や自治体が進める支援制度を活用しながら、学びたい意欲をもつ学生の支援を今後も続けてもらいたい。

18 歳人口減少、また昨今の高校生の進路動向から、2024 年度は入試制度改革に取り組んだほか、広報戦略も身を結び、出願数増加につながっている。今後、進級や卒業、就職などの結果をもとに検証を進め、質の高い学生の維持、確保に努めていく必要がある。

日本におけるファッション産業を人材育成の面で支える大きな役割を担っている。業界で活躍する人材を輩出するという重要な役割を達成するため、引き続き、真摯に教育活動に取り組んでいかれることを望む。

文化服装学院の教育成果と更なる発展に期待している。

#### 4. 学校関係者評価委員による文化服装学院 自己点検・評価への提言

2024 年度自己点検・評価において、本学院が設定している評価項目に対する委員からの提言は以下の通りである。

##### 1) 教育理念

###### ①文化服装学院の教育理念

###### [本学院の現状]

学校教育法に基づき、服飾に関する専門知識・技術を教授研究し、服飾教育界、ファッション産業界に貢献すると共に、高度な技術と教養を備えた創造性豊かでグローバルに活躍できる人材を育成することを教育の理念としている。

4つの専門分野に特化した課程を設置し、それぞれ世界に通用するオリジナルのカリキュラムをもって学生の自主的な学修を促進。国際的な共創教育で、ファッションを通して持続可能な社会へ価値を提供できる人材の育成を行っている。

学内イベントでは課程を超えた協業で、情報の共有や交流、企画立案から準備・実行を体験し、個々の成長につながる機会を創造している。さらに、国内外のファッション企業や卒業生のネットワーク、コラボレーション事業、インターンシップといった学びの場を提供している。時代に合わせた教育環境を提供し、カリキュラム授業での知識・技術の追求、国際的な共創教育によって想像力や積極性を育むことで、役割を果たしていくことが本学院の使命と考えている。

一人ひとりの個性を大切にし、国際的・多様化に対応できる人間力を身に付け、高い専門知識と技術を習得した学生を育成することが、本学院の目指すファッション教育の方針である。

###### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・「国際的な共創教育」「ファッションを通して持続可能な社会へ価値を提供できる人材育成」という教育理念に基づき、様々な取り組みがなされている。また、あらたにファッション業界で活躍されている若い人材は、持続可能性を強く意識した創作活動に取り組んでいると見受けられ、その点でも学院の教育理念が学生たちの関心を引き、理解されていると感じる。
- ・日本におけるファッション産業を人材育成の面から支えるという、極めて重要な役割を果たしていると感じる。業界に優れた人材を輩出するための取り組みは適切に行われており、理念は着実に実践されている。今後もファッション業界との連携を強化し、より多くの人材を引きつけ、育成することで業界の発展に貢献されることを期待する。
- ・バランスの取れた良い教育理念だと思う。「国際的な共創教育」を見出しに掲げている点や内容は、ほぼ前年踏襲だが、25年度の本文で「国際的な共創教育」を削ったのは、見出しとの重複を避けたためなのか気になった。
- ・「国際化・多様化に対応できる人間力」は現代において必要不可欠であると深くうなずいた。ファッション界のみならず国際的に活躍し得る人材育成に、引き続き期待している。
- ・昨年の目標に対する取り組みに対し、実を結んでいる内容の評価する。
- ・専門性と国際性を目指し、ファッション業界からの社会貢献を目的とする人勢育成についての想いと手段が定義されており、魅力を感じる。

## 2) 学校運営

### ①法人組織 ②学校組織

#### [本学院の現状]

法人では、学園の総合的な業務の効率化に向けたシステム構築や、改正私立学校法に基づき、寄附行為の変更を行っている。また、多様な働き方を実現するための学校法人の諸届、規定の改廃を進めるほか、新たな勤怠システムの運用も行う。

事務局および教員組織においては、業務効率の向上と活性化に向けた業務分掌の見直しを行うほか、情報共有の推進を行う。また、学生数、学納金収入に応じた事務局体制の見直しも継続して行う。

教員のニーズを取り入れた研修の企画・実施体制強化を継続し、教育レベルの維持・向上、専門力の強化をうとともに、グローバル化への活動を継続する。他方、退職に伴う専任教員の計画的な補充及び採用活動における優秀な人材の確保に努める。

教職員による 5 つの委員会（教育課程編成委員会、学生生活・留学生支援委員会、研究企画委員会、キャリア支援委員会、自己点検・評価委員会）と外部委員による学校関係者評価委員会が組織され、学校運営の改善について問題の提起、検討、解決、検証を行っている。

#### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・寄附行為の変更は随時起こりうることであり、その都度対応していると感じる。
- ・教員の働き方改革は、小学校から大学・専門学校まで様々な問題を抱えていると思うので、民間の取り組みも参考に、継続して見直しが必要と感じる。
- ・アパレル各社の店舗においても、売上によって定員数を決めているのが実態だが、シフトの問題・営業時間の問題などに配慮し、必ずしも売上と定員数は連動させないという考え方もある。そこに負荷をかけると社員が疲弊するため、慎重に検討いただきたい。
- ・教員の採用については、ファッション業界での専門職採用と同じように、人数・レベルともに落ちていることは事実だと思う。学院で教員採用が行われていることを周知する広報戦略が必要かと思う。
- ・研修については、かなり充実されていると思う。CLO 教育の内製化も進んでおり、感心する。
- ・グローバル化への活動も他校にはない、充実した内容だと感じる。
- ・IT 化の推進によって付帯業務の軽減と効率化を実現し、教員が教育活動により多くの時間を割ける体制を整えている点は高く評価できる。  
人材確保や研修を通じた教職員のスキルアップは継続的な課題だが、学生対応や研修に積極的に取り組んでいる点は適切。特に「ファッション基礎語彙」の導入は良いアイデアであり、今後は翻訳や多言語対応など国際的な発展を期待する。
- ・各部署で改善に対する取り組みが行われていて評価できる。
- ・システムの導入による業務の効率化、多様な働き方の実現では、証明書の学外発行システムの導入、有給休暇の時間単位取得制度の導入、育児時短制度の小 3 までの拡充など、利用者にとって有益で、さらなる改善に期待したい。
- ・人件費削減のため、残業の増加や離職者発生につながった点は残念。業務効率化、適正な人員配置と同時に、将来的には少数でも定期採用を続けつつ入学者確保に注力し、今いる職員の負担を増やさない形で問題解決に当たってほしい。
- ・課題に対する多くの見直しや改善がみられ、それに対する評価も適切だと思う。
- ・時代に合わせた業務の効率化に一定の成果はあるものの、さらなる改革に期待。
- ・イントラ整備など業務効率化に関する継続的な活動が評価できる。承認システムの事務局運用との不適合についても、さらなる効率化実現のための新しい課題が見つかったものと考え、積極的に解消していく姿勢を持つことが望ましいと考える。

- ・教員のモチベーションやキャリア発達についてより一層議論が必要であると考え  
る。教員のニーズがスキルアップにあるのか、その他の金銭的・非金銭的評価にあ  
るのか、学校組織を支える人材開発の観点で、一層の取り組みを期待する。

### ③財務状況

#### [本学院の現状]

2023 年度より運用が開始されたインボイス制度、電子帳簿保存法において、2024 年度はその着実な運用と定着に向け、マニュアルをベースとした適切な処理を行って  
いく。また、東京都や私学財団の各種補助金を活用し、補助金収入を継続的に獲得し  
ている。

また、学園の財務基盤の維持・向上のための施策を検討、実施するほか、学園の財  
源の多様化に資する施策も継続して実施する。法令・制度改正への適切な対応と学園  
内部の理解促進に資する情報提供を行うほか、学園業務の効率化に資する施策（主  
として経費業務に係るペーパーレスの推進、キャッシュレスの推進、各種経費支払方法  
の改善）を検討、実施する。

#### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・財務に関しては、将来的に学納金が減少することを前提に、組織や施設の縮小を想  
定されているようだが、入学者数が少しずつ減っていく状況に合わせて、少しずつ  
そこに合わせていくべきで、その改革を先行させると組織が疲弊すると思うので、  
気を付けて取り組んでほしい。
- ・現在、雑誌の廃刊も増えているが、装苑も世の紙離れには抗えないと思う。Web サ  
イトの充実が課題と思われる。
- ・インボイス制度や電子取引データ保存義務化といった行政制度の変更に迅速かつ適  
切に対応している点を評価する。補助金取得や収入源の見直しに取り組み、安定的  
な財務運営を目指して、さまざまな取り組みをされていることも大変適切。
- ・しっかり取り組んでいる姿勢、内容とも評価できる。
- ・数年前から指摘している通り、事業報告書の「将来を見据えた方針」にあるような  
ネガティブな意見が学内の認識としてあるが、一向に改善に対する方策がとられて  
いるように感じない。特に出版部門に関する赤字額は複数年で考えると巨額の損害  
といえる。
- ・教育理念の実現に向け、真に紐づく項目に投資が集められているのであれば、胸を  
張ってよい運営だと考える。その他支出の抑制や合理化・効率化の動きについて  
は、組織に関わる全ての方が共通に課題意識を持つことが大切であると考え。

### ④法令等の遵守

#### [本学院の現状]

引き続き、学則および各種規程においては、必要に応じて適切な改定を行なった。  
特に 2024 年度においては、入試改革に伴う各種入試（指定校推薦入試、公募推薦入  
試、総合型選抜入試、自己推薦入試、一般入試）に関する内規等を見直し、改定、制  
定した。

ハラスメントに関する相談は、学生課が窓口となり対応している。相談があった場  
合には、当事者や関係者に聞き取りを行い、慎重に対応している。また、継続したハ  
ラスメント防止研修や世間的な人権意識の高まりにより、個人個人にハラスメント防  
止の意識も浸透している。しかしながら、個々の考え方も多様化しているため、引き

続きハラスメント防止についての意識向上に努めている。

個人情報保護の意識向上に努めている。教職員においては、学園の規定に基づいて各々が意識を高めているほか、学生においては学生手帳への記載、オリエンテーション等を通じて周知に努めており、また法律・ガイドラインの周知徹底も行っている。2024 年度においては、大きなトラブルは発生しなかった。

#### [学校関係者評価委員会からの提言]

- いつの間にかハラスメント調査の項目がなくなった。学院は女性が多い職場なので、パワハラやセクハラが少ない職場であろうことは想像できるが、一度実施しておくと思料材料にもなると思料。
- 個人情報に関しては、教職員よりも学生に気を付けていただく必要がある。SNS による自宅の特定や、活動場所の特定など、注意喚起が必要かと思料。
- 状況に応じて規程やルールを見直し、法令遵守を徹底している点を評価する。ハラスメント防止においては「受け手の感じ方」という曖昧な側面もあるため、引き続き丁寧な対応を期待する。
- ハラスメント対策は、言語や文化的な背景の違いなどもあり対応が難しい問題だと思料が、25 年度の課題に挙げた「相談窓口の設置」に期待する。
- ハラスメントなど社会問題とも向き合うセンシティブな内容について慎重な対応が見受けられた。適切な評価だと思料。
- 学則の改定、各種規定の見直し、ハラスメント対策、個人情報の取り扱いなどに関する取り組みを評価。以後の継続した改善に期待。
- 諸規程の見直しは、見直し自体が目的ではなくその変更によって目的とする施策が実施できたか、より実態に合った運営ができたかが評価されるべきであると思料。規程の運用実態に関する内部監査等の強化を期待する。
- ハラスメントの類型や事例はますます増えており、学校側の対応も難易度が増してきているものと思料。個人の主観が関わる以上、完璧な対応も、未然防止も困難であるという現実的な前提に立ち、実効的な相談窓口の運用や効果測定に注力することが重要であると思料。

#### ⑤社会貢献等の取組

##### [本学院の現状]

文化祭にて行ったバザーの売上金を社会活動団体へ寄付を行った。作品を製作し、販売、売上金を寄付する社会活動を通じて社会貢献に対する意識向上が見込まれる。

学友会活動の一環で行なう「口と足で描く芸術家協会作品の販売協力」「赤い羽根募金」においても継続して協力したほか、SDGs への取り組みとして、パタゴニア社と共同で、文化祭にてサステイナブルをテーマにした共同プロジェクトにも取り組んだ。さらに、産学コラボレーションを通して、学生の社会貢献活動について周知し、社会貢献となるような取組をした。2024 年度は、20 件の産学コラボレーションにおいて社会貢献活動につながる取組が行われた。

広く一般の方々へ学びの場を広げるべく、生涯学習講座としてオープンカレッジと通信教育を実施している。多様な受講生のニーズに応えるためにオンライン・オフラインなど柔軟に組み合わせた対応のほか、新たな講座やワークショップ、外部企業とのコラボ講座、海外の学生、企業を対象とした臨時講座の設定も行なった。また、矯正施設などで暮らす方を対象として、一般社団法人社会通信教育協会を通じて、通信教育講座を提供している。



### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・これまで以上に社会貢献につながる活動を支持する。
- ・地域や企業とのコラボレーションなど、文化ならではの社会貢献活動に取り組んでいる点を評価する。これらの取り組みを広く周知することは、学校の対外的な評価向上にもつながると考える。また公開講座は積極的に新しいニーズを開拓している点、アンケートによる改善の姿勢も高く評価できる。今後さらに取り組みを拡大・発展されることを期待する。
- ・学院、学友会それぞれで、継続的に社会貢献に取り組んでいる点は評価できる。産学協同の取り組みでも、社会貢献的な内容が増えている点は興味深く、今後も発展的な取り組みが増えることに期待したい。公開講座は、外部企業とのコラボやインフルエンサー的な講師との協業、ポップアップ講座の仕組みは新たな講座開発に有効。今後も受講生の声も聞きながら、受講生や社会ニーズを探りつつ社会的に意義のある新たな講座の開発と、受講生の満足度向上など講座のブラッシュアップに期待したい。
- ・産学コラボレーションが成熟してきている印象。それらが社会貢献につながっているのは素晴らしく、ぜひ継続していただきたい。公開講座やワークショップの認知度はまだ低いように感じた。評価は適切かと思うので、改善に期待する。
- ・学友会活動や産学コラボレーションなど、学院らしい社会貢献活動は一定の意義がある。公開講座の細かな PDCA を回して学外との関りを深めてほしい。
- ・公開講座に関する点検評価が詳細にわたっており、次年度への改善が期待できる
- ・学院での専門的な教育/研究活動自体が社会にとって有益な効用を生み出しているという視点を大切に、学外のみならず学内の成果にも積極的に注目すべきであると考ええる。

## 3) 教育環境

### ①施設・設備

#### [本学院の現状]

2024 年度クラスの増減に合わせ、授業運営に滞りがないよう、施設や機材・備品の調整を図った。2024 年度新設のバーチャルファッションコースの必要備品は、既存クラスの教室備品を調整して設置したが、不足するものは新規購入して整備した。

講義室・実習室については Web 予約管理の運用方法が浸透しており、継続して運用を行っていく。

老朽化した施設・設備のリニューアルを計画的に進めている。施設・設備・備品の計画的な管理・運営については、恒常的で重要な課題であり学園全体での調整と改善に引き続き務める。

キャンパスマスタープランを策定するため、コントラクション・マネジメント業者と契約を締結し、キャンパスの現状把握と可能性の検証、課題抽出を行なった。今後、上記の現状把握に加え、ニーズや実情を明確化するため、アンケートの実施や検討委員会設置を計画している。

IT 環境の整備・管理については、ICT 推進課により各種システムや Web システムの運用支援が行われている。情報セキュリティ強化に努め、ネットワーク機器の更改も行われている。

### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・引き続き施設・設備のメンテナンスの実施を期待したい。
- ・IT 化を含めた設備投資が適切に行われており、教育環境の充実が図られている点を評価する。一方で、校舎の老朽化については大規模な投資を要するため、計画的か

つ早期の対応が望まれる。

- ・備品の購入希望調査、IT環境の整備など、授業の運営に滞りがないよう運営、改善されている点は評価できる。
- ・取り組みの結果と点検に対する細かな改善点を実践して、学びやすい環境づくりに取り組んでほしい。
- ・個別最適の積み重ねでは実現することが難しい課題であるため、キャンパスマスタープランの推進や、IT 資機材の効率的な導入など、計画性を重視して推進されることが望ましい。

## ②附属機関・施設

### [本学院の現状]

教育・学修支援においては、学生に対し情報や機会を創出し提供する学修支援機関・施設として、図書館、服飾博物館、ファッションリソースセンター、国際交流センターを設置し、学内外における活動の広がりを支援する積極的な取り組みを行っている。

学生生活支援においては、学生に対し生活をバックアップする生活支援機関・施設として健康管理センター、文化購買事業部、学生食堂、学生寮などを設置している。

研究・対外活動においては、対外的な活動の広がり支援と共に多角的に学生への還元を目的に、文化・服装形態機能研究所を設置している。

### [学校関係者評価委員からの提言]

#### 1. 教育・学修支援

- ・図書館利用について、86.3%から 102%へ貸し出し冊数が増加したということだが、特定の利用者が多いのだと思う。せっかくこれほどの資料と書籍を所蔵されているので、多くの学生に利用していただけるよう、活用方法を周知していくと良い。
- ・図書館は大きな資産であり、利用サービス向上に向けた取り組みが進められており、適切に機能していると評価する。さらなる収集活動の継続やデジタルコンテンツの充実を期待する。留学生支援では、交流や相談、生活面のサポートなど幅広い活動が行われており、高く評価できる。
- ・貴重な資料の管理と有効活用を行うため、努力する姿勢が評価できる。
- ・国際的な活動の充実を伺い知ることができた。国際的な取り組みの成果に期待している。
- ・図書館／服飾博物館／ファッションリソースセンターに関する質が高いので、学外に向けた利用や活用（有償）の方法を検討してほしい。日本全国の繊維産地との協業などの企画化に期待。
- ・ファッションリソースセンターの産学交流や外部との取り組みは素晴らしいと思うが、外部の一般利用も許されているか。
- ・国際交流センターの活動は引き続き活発に行ってほしい。
- ・国際交流センターは、学生の視野が広がる機会を提供し、海外の学生向けの研修にも力を入れている点が評価できる。今年度の海外留学の機会提供の取り組みにも期待したい。
- ・各施設の評価指標は各施設を「どのように使ってもらいたいのか」という方針とセットになるものであると考える。来館者数や、滞在時間、来館動機など、明確な運営方針を設定したのち、対応する指標を収集し、分析するなどの活動が期待される。

## 2. 学生生活支援

- ・健康管理センターのアンケートへの回答が 1 件で、回答率が低すぎる。ただ、881 人の利用者がいるということは、その存在は知られているということで、一定程度のセンターの存在意義を認める。健康指導にはデジタルよりイラスト・漫画のついた「紙」のほうが効果的かもしれない。
- ・EC 販売が 3 割も増加した事実は素晴らしい。その分、リアル店舗での売り上げが減少したということはないか。
- ・学生食堂は学生の健康管理には重要な施設であるから（特に一人暮らしの学生に）、様々な面で常に配慮していただきたい。
- ・学生寮については、効率や運営の煩雑さを考えると直営から専用への切り替え推進がよいかと思う。
- ・学生生活支援は適切に運用されている。健康関連の案内については、メール配信だけでなく LINE など学生が利用しやすいツールの導入を検討されると、より効果的と考える。
- ・健康情報の提供はメールに加え、校舎のロビーでの掲示など、複数の手段で行うと、より効果が期待できると思う。
- ・適切だと思う。
- ・学生支援に関する施設は思いのほか充実している。学生が必要とするサービスにつながる仕組み作りが必要。
- ・メールアンケートに関する回答率を意識した分析がなされていることを評価する。到達率/開封率の多寡が次の課題であることを前提に、学生への通知方法の改善等に取り組むことを期待する。
- ・購買部の EC 化率の進行は時代を反映した学生の行動を表しており、非常に興味深く拝読した。購買部設置の目的が学生に必須の物品の提供機会を創ることにあると考えると、時代に合わせて品ぞろえや品の置き場（EC/リアル）を一層工夫していく必要があると感じる。

## 3. 研究・対外活動

- ・毎年の計測・研究の積み上げが継続していることは評価すべき。
- ・カタログハウスとの取り組みの内容がよくわからないので、評価がしづらい。企業との研究開発はもっと増やしていけると良い。
- ・貴重なデータ収集を継続している点は大変意義深いと評価する。節目となる今年（20 周年）には、成果を整理・発表するなど、一つの区切りをつけることを期待したい。
- ・計測データの分析結果は社会的に価値が高く、19 年にわたる経年変化の研究、車いす使用者のウェディングドレス制作など、社会的に意義がある研究に数多く地道に取り組んでいる点は、大いに評価できる。今後も業界とも連携し、ファッション業界全体にとって価値のある独自の研究と分析を続けてほしい。
- ・評価が下がった項目とのことだが、どの点がその要因なのか。課題に対する取り組みは行われているように見受けられたが、その点検の甘さなのか。そういった疑問点を込めて 3 とする。
- ・各取り組みと結果を見ると、停滞感を感じる。
- ・各研究の関連性や今後の研究計画の優先順位付けなど、服装形態機能研究所の設置目的と各活動が全体観をもって振り返られることを期待する。個々の研究の価値に加えて、研究所自体の価値や方向性がより具体的になることが重要であると考える。

#### 4) 学修支援

##### ①キャリア支援

###### [本学院の現状]

就職率の維持・向上を図るため、キャリアアドバイザーと就職支援室で連携をとりながら学生支援を行ったほか、学生の就職活動の利便性向上につながるオンライン対応、個別説明会や企業研究会なども実施した。また、下級生からの就職活動の取組も強化したほか、外国人留学生への就職支援体制の拡充も行なう。

求人企業の開拓及び認知促進・向上のため、企業見学会を実施したほか、文化学園大学と共同で求人票の送付を行い、企業への PR を行なった。また、新規求人企業に訪問して情報交換を行い、夏季インターンシップへの新規参加企業の増加に繋げるなど、研修企業や職種の幅を広げた。

教育課程編成委員会からの提言をもとに、キャリア教育の充実を図っている。

###### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・高い就職率となったことは素晴らしい。ファッション系専門学校の中ではトップクラスではないか。  
基本的に指導方法は間違っていないと思うので、継続されると良いと思う。
- ・留学生も人数が多いので、指導は大変かと思う。わたしもこれまでに留学生の面接を何度も行ってきたが、ネックになるのはやはり語学力。日本企業で働くには「日本語」でないとダメなので、入学当初からその意識づけは必要かと思う。
- ・新規企業の開拓など、積極的に活動されており高く評価できる。
- ・各学校でキャリアスを利用しているケースが多いが、求人情報の閲覧などは、文化服装学院では独自のシステムを使われている。求人情報の入力など大変ではないか。また企業側からすると別対応しなければいけないため、手間がかかるかと思われる。
- ・就職活動支援が多面的に行われており、職業人としての意識付けや下級生への早期教育など、ユニークで成果につながる取り組みがなされている。  
インターンシップ応募書類を拝見する機会があったが、学生が社会人としてのマナーを身に付けている点は、企業側から見ても高く評価でき、教育が行き届いていると感じた。
- ・下級年次生や外国人留学生に対する支援強化、新規企業開拓、クラス担任らとも連携したキャリア開発など、毎年、工夫を重ねて成果を上げている点が、大いに評価できる。
- ・重点項目とのことだが、課題に対して改善や強化が見られ、数字として成果に現れているのが感じられた。業界にとっても重要な課題であるため、引き続き取り組み強化を期待するとともに、学校側だけではなく、企業の協力も不可欠なことがわかった。企業との関係性がさらに深まることを望む。
- ・就職率の維持・向上に関する取り組みを評価。外国人留学生への支援体制の強化に期待。
- ・キャリア支援成果について総量だけでなく、業種別/職種別の強み弱みをさらに深く分析し、学生ニーズ、企業ニーズに対応できる状況を作ることが望ましいと感じる。学院の他校にはない強みや独自性を表現する素晴らしい機会になるのではないかと考える。

## ②資格取得支援

### [本学院の現状]

検定受験率や検定当日の出席率増加をはかるために、メール配信や各クラス担任との連携を行った。申請増加につながった検定もあったが、減少してしまった検定もあった。

各検定試験の運営において、検定会場や実施担当人員を的確に配置でき、円滑に運営をおこなっている。

### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・ 検定の実施会場としての運営も大変かと思う。学院の学生にはぜひ受験してほしい。パターンメーキング3級の受験が随分少ない印象。
- ・ コラボレーションのようなわかりやすさではなく、地道な努力が求められるため、学生は敬遠しがちで、今後のさらなる工夫が求められる領域。現状は評価コメントがしづらいものの、引き続き学生支援の一環として強化を期待する。
- ・ 受験者数を増やす取り組みに妙手はないようで、地道に努力しつつ、検定試験の運営を担当している点が評価できる。
- ・ そもそも現在において、検定が実際に社会に出てからどれほど必要なのかを見直すという観点も必要かと思う。検定を受けることだけが目的にならないような点検も必要に感じる。
- ・ 適切に支援の取り組みがなされている。学生の資格取得に対するモチベーションの向上も必要ではないか。
- ・ 資格取得率や取得状況が本質的にどの程度意味のある指標なのか、再考は必要であると考え。特定の資格が、全体的な就職状況や特定業界への就職率に有意な相関があるのかどうか、など具体的に検証可能な側面もあるかと思う。それによって学校側も学生側も何に時間とコストを投じるべきかを見直す機会になる。

## ③学生相談体制

### [本学院の現状]

学生の置かれた状況とニーズに合わせ、対面面接に加え、電話、オンラインによる相談体制を整えており、学校に来られない学生においても利用できるようになっていく。

障がいのある学生の教育的ニーズを把握し、合理的配慮について教員と連携を深めながら進めている。教員へのコンサルテーションを行い、情報共有も行っている。

また、多様性を学ぶ機会を増やし、手話講座等ボランティア活動につながるイベントを企画している。

### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・ 障害のある学生で学校の方針に満足出来ないという方がいるようだが、対話の積み重ねが必要なのだと思う。対応される職員もメンタル的に大きな負担となることが予想される。まわりでフォローしていく体制が必要かと思う。
- ・ 素晴らしい活動を数々されているので、学生に伝わらないのはもったいない。校内のSNS運用なども検討するのはどうか。
- ・ ダイバーシティや多様性への対応は難しさを伴うが、その課題に正面から取り組んでいる点を評価。適切な運用がなされていると考えられる。
- ・ 登校困難な学生には電話やオンラインで対応したり、障害のある学生のニーズを丁寧に聞き取るなど、寄り添った相談体制を取り、教職員と連携しながら対応している点が、大いに評価できる。

- ・適切な評価だと思う。
- ・細かな体制でサポートしている。今後も継続・サポートの強化に努めてほしい。
- ・学生相談に立たれる教員側へのケアや必要資源（外部専門家）へのアクセス支援なども含め、長期的かつ合理的な体制を広げていくことが重要であると考え。合理的配慮の実現や説明には困難な側面が多いと思うが、多様性への対応という観点で、学生も含め全学関係者が共通に取り組むべき課題であると考え。

#### ④経済支援・健康管理

##### [本学院の現状]

学生や保護者に対し制度の理解向上に努めている。新たな給付型奨学金制度については、適切に運営するために、申請・採用時から指導し、学生が給付を受ける意識を向上させることができた。貸与型奨学金制度についても説明会を開催し、合わせて学生への連絡を細かく行うことで、提出書類の遅延などを大幅に解消することができている。

また、家計の急変など、様々な状況の学生及び保護者に対して、丁寧な説明を心がけ、学生の適切な奨学金申請・採用につなげている。

健康診断においては、健康調査センターと連携し、円滑な健康診断を実施している。全体受診率は 97. 2%となっており、2023 年度と比較して 0. 4%の受診率向上となった。

##### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・奨学金に関する情報提供は引き続き実施されるべき。
- ・例年、受診率の高さに驚くが、さらに上がっていることには脱帽する。
- ・奨学金制度や健康支援など、地道ながら学生生活の基盤を支える取り組みが適切に実施されている。
- ・奨学金の給付を受ける意識を向上させるために、状況に応じて保護者も含む説明を行うなど、学生の経済支援にしっかり取り組む姿勢と、健康診断の受診率の高さは大いに評価できる。
- ・適切な評価だと思う。
- ・各個人に合った経済支援を提供している。健康診断の実施体制も評価。
- ・健康診断の受診率は非常に高く、学生の健康面が学院によってケアされていることの証左であると考え。
- ・奨学金についても存在の周知と適時のアドバイスと申請促進、採用までの支援がなされており、点検評価通りの印象。一方で、さらに現状残る課題がないか、さらに改善すべき状況がないかという点について言及されたら、よりよい振り返りになると感じる。

#### ⑤卒業生・社会人への支援

##### [本学院の現状]

卒業生の会であるすみれ会ではすみれ会の認知向上及び情報伝達の向上に努めている。コロナ禍以後休止となっていた同窓会パーティーを 5 年ぶりに実施したが、休止期間中に認知度が薄れていたこともあり、会員の参加者が減少した。認知を広げるため、告知の方法を見直しする必要がある。

すみれ会の会員管理方法を見直し、クラウドシステムによる一元管理方式を導入にして効率化を図るとともに、会員自らが情報を更新できるシステムを構築して利便性の向上を図る。

また、卒業生への就職・転職・支援の充実と広報活動を実施している。就職未決定者に対しては、卒業後も就職相談を継続するほか、転職支援情報などはホームページを通じて情報を発信している。

#### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・同窓会パーティーは少し時間をかけて再び認知度を上げていくしかないと思う。
- ・クラウドシステムに移行されたことで、セキュリティ的にも大変良い選択であったと評価できる。  
コンテンツとして、転職支援なども行えると良い。
- ・会報がペーパーである限り、郵送代がかかるので、これも時間をかけて移行していく必要があると思う。若い世代から順に web・デジタルに切り替えていくと良い。
- ・御校の卒業生ネットワークはファッション業界にとって有益であり、卒業生自身がすみれ会の運営に関わる仕組みを導入できれば、すみれ会の活性化、ひいては業界の活性化につながるのではないかと思慮する。
- ・すみれ会会員の経営者に母校への求人を呼びかけ、一方で卒業生にも就職支援を行っていることの広報活動も引き続き注力し、卒業生の間でも拠り所として活用する人が増えることに期待したい。
- ・「検討」という言葉が気になった。特に電子版の切り替えなどについては検討ではなくすぐにでも実施してよいのではないかと。
- ・卒業生とのつながりをさらに強化しても良いのではないかと。
- ・卒業生組織は伝統校ならではのアセットであり、力を入れて強化していくべき領域の一つであると考え。現役生の時代から OBOG と交流する、卒業生ネットワークが活用されたユースケース（就職などの成功例）などを具体的に創出、注目し、周知していくことで、現状よりもなお一層価値のある組織に変えていけると考える。

### 5) 教育活動

#### ①学校のカリキュラム編成

##### [本学院の現状]

各科の人材育成目的に合わせて、基礎から実践力まで専門知識を身に付けるために、教育課程編成委員会を主管に随時カリキュラム編成の見直しを行っている。

アパレル業界にて急速に拡大している 3D 分野の人材育成を目的として、2024 年度よりバーチャルファッションコースを設置した。グラフィックやバーチャルに関連した多くの企業と連携したカリキュラムを構築、実施した。

また、本学院の専任教員がファッション業界の最新情報を随時取り入れることができる環境を整備し、より実践的なカリキュラムの充実を図っている。

さらに、企業の現場で働いている非常勤講師等と連携を取り、時代に即したカリキュラムの改善を随時行なっている。

##### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・バーチャルファッションコースの卒業生が社会人になり数年経験を積んだ後、在学時にリアルな現場のデジタル化について教えていただきたい。
- ・企業の現場で働いている非常勤講師の協力のもと、カリキュラムの変更は本当に行われているのか。授業を担当していただくだけでは丸投げになってしまうので、注意が必要かと思う。
- ・常に課題感を持ってカリキュラムの見直しをされている点を評価するが、課題を明確にして取り組みの進捗や成果について具体的に示されることを期待する。

- ・現場で働く人も非常勤講師として迎え、業界の最新情報を随時取り入れ、時代に即したカリキュラム編成に見直せる仕組みを作り、常に努力している点が大いに評価できる。
- ・新設のコースについて、「バーチャルと実物作品の両方を制作できる技術力を身に付ける」といった文化ならではの人材育成への姿勢が感じられた。期待している。
- ・各科の人材目標に合わせて編成されている。時代に合わせた学びや、企業の求めるニーズの抽出によるさらなるカリキュラム編成に期待。
- ・専任教員だけでなく非常勤講師も含めた編成過程を経ていることが素晴らしく、実効性に期待する。
- ・教員相互の授業評価など、事業の内容改善にも教員の積極的な参加を求めることができたらいと思う。

## ②課程・教科のカリキュラム編成、授業研究、学生対応

### [本学院の現状]

それぞれの課程及び学科は教育理念、人材育成の具現化に向け、特色を持ったカリキュラム編成を行っている。

実践的な教育を通して意欲向上と就職に対するさらなる意識付けをするため、特別講義、カリキュラムの見直しを行い、コンテスト活動やインターンシップ、企業とのコラボレーション活動など、学びの場が広がるよう授業研究を絶えず実施している。

### [学校関係者評価委員からの提言]

#### 1. 服飾専門課程

- ・学生の自主性が育つ指導は大変素晴らしいと思う。コンテストやコラボレーションについてもがんばってほしい。
- ・「外部講師を招き作品のアドバイスと評価をもらう機会を作った結果、適度な緊張感を持ち」のくだりには共感。学生だけでなく、大人も含めて外の人のお話はよく聞くというのが人間である。
- ・専攻科でなかなか就職活動をしない学生も多いとのことだが、専攻科まで進んでいるのにもったいない。企業からはかなり期待されていると思うので、独立志向の学生も多いだろうが、一度は社会人を経験したらと思う。
- ・実習や体験型学習を重視し、学生が主体的に取り組む仕組みを構築されていると思う。即戦力となる人材育成につながる内容であり、学習効果も適切に上がっていると評価できる。
- ・学生の現状に合わせた様々な見直しや、授業内での細かいアドバイスの工夫を行い、学生が意欲的に学び、就職活動に取り組める環境を整えるよう配慮している点が大いに評価できる。
- ・校外授業の参加が多かったとのこと、内容が気になった。学生によい刺激をもたらそう。
- ・細かな取り組み・配慮が見られるカリキュラム編成となっている。
- ・自由選択の実習機会が増え、それに参加する学生が増えたという点、素晴らしい成果であると考えます。

#### 2. ファッション工科専門課程

- ・企業や社会との関わりの中で行われる教育体制は重要だと感じる。
- ・具体的なコラボレーションやコンテストの記述を拝見すると、活字だけでも関わらずワクワクする。学生はやりがいを感じながら作品制作を行っていることだろう。



- ・「スポーツアパレルデザイン論」なる科目を設けられたとのこと、素早い動きに感心する。スポーツアパレルはファッションアパレルに比べてモノづくりが独特だが、ファッションを経験した方がスポーツ業界で活躍する例は非常によく目にする。この科目ができたことによって、日本のスポーツアパレルに貢献できる人材が排出されることを期待する。
- ・実務に即した教育を提供しており、業界の最新動向を踏まえた取り組みがなされている。学生の発想力を生かした課題設定や発表の機会が確保されており、教育効果は高いと考えられる。
- ・各科の特性に合わせたカリキュラムの編成、産学連携の取り組みによる実践的な教育を行っている点、新設したバーチャルファッションコースでも意欲的に上記の取り組みを行っている点、休退学者を減らすためのカリキュラム見直しや個々のペースに合わせた指導の工夫など、大いに評価できる。
- ・コミュニケーション能力と伝える能力はとても重要で、日本のデザイナーやクリエイターの弱い部分に感じることが多くある。国際的な人材育成として、引き続き強化していただきたい項目と言える。
- ・ファッション工科の各科に合わせたカリキュラム編成がされている。  
専門課程が細分化される傾向にあるが、横断的にクロスした広く学ぶ単位制の科があっても良いのではないかな？
- ・休退学者や履修放棄学生への対応への課題が抽出されている点が点検評価として評価できる。効果はあるが負担のかかる方法と、効果が見られない方法については改善の方向が異なるため、具体的な課題の検討と対応策の実行を一層期待する。

### 3. ファッション流通専門課程

- ・産学連携の取り組み、デジタルを活用しての新しいカリキュラムなど、リアルを意識した実践的な教育がなされていると思う。
- ・スタイリスト、モデルとしての就職は非常に大変だと思うが、現役スタイリストがアシスタントを探すケースは少なくなく、その場合に学院に声をかけてもらえるよう周知しておくとうい。また、芸能事務所との連携も欠かせない。
- ・実務に直結するカリキュラムを展開しており、流通分野の専門性を高める教育が実践されている。行事や課題を通じてチームワークや社会性を育んでいる点も評価できる。
- ・時代に合わせたカリキュラム作り、インターンシップやSNS、デジタルを活用した実践的な即戦力を養える教育を行っている点が、大いに評価できる。
- ・校外授業や外部講師など積極的に行って、社会との接点を増やすことに期待する。
- ・ファッション流通業のノウハウやニーズの多様化がある中で実践的な学びの取り組みができています。
- ・ドロップアウト率の低減に効果があつた施策の振り返りがなされていた。こうした取り組みが課程を超えて共有され、全学のアクション改善に活用されていくことを期待する。

### 4. ファッション工芸専門課程

- ・工芸専門課程の場合、学生の確保も大変だと思うが、業界としてはここで学ぶ人材の排出は極めて重要で、期待している。ただ、新卒で就職することが難しい職種でもあるので、企業との強固なパイプを築くことが必要と思う。
- ・多岐にわたる工芸専門科はいずれも必要だと思うので、継続を願っている。専門性の高い工芸技術を実習中心に習得できる体制を整え、学生のスキル形成に直結して

いる点を評価する。

- ・各科によって制作する物が異なるため指導法を各科で工夫し、産学連携で実践的な教育を行い、国籍や年齢、作業の進行速度の異なる多様な学生に対して個々に寄り添った指導を行っている点が、大いに評価できる。
- ・専門知識や技術を育てるための多岐にわたる取り組みを知る事ができた。「さまざまな気質への対応」など学生と向き合う姿勢を感じ、改めて勉強になった。
- ・社会的にファッション専門課程のニーズが減っている中で、少数精鋭の強みを発揮できるカリキュラムの強化・取り組みを期待。
- ・AI や DX、SDGs など、教員側も学びながら教授していく領域への取り組みへの注力が印象的だ。学生とともに学ぶ意識で推進し、カリキュラムの効果を高めることを期待している。

#### 5. II 部服装科・II 部ファッション流通科

- ・学生の多様性に合わせて指導していくというのは、困難を極めると思うが、様々なアイデアと手法で対応されていることには敬意を表する。
- ・新しいカリキュラムがスタートするということで、授業の充実に期待がかかる。
- ・社会人や多様な学習者のニーズにこたえる柔軟な教育体制を整えている点を評価する。学習機会の多様化により、ファッション教育のすそ野を広げていると考えられる。
- ・働きながら学ぶ学生が、学校で学んだ内容を現場で直接確認できる強みも生かし、工夫して指導に当たっている点が、大いに評価できる。
- ・動画の配信などニーズに沿った内容の充実化に、教育側の努力を感じた。
- ・夜間という限られた時間の中で効果的なカリキュラムの編成の向上に期待。
- ・社会人や就業を強く意識している学生にとって重要な、学習にかけられる「時間」の貴重さに配慮し、授業へのアクセシビリティを高められていることが印象的。具体的な志向や意欲を持った学生に対し、効果的・実践的な内容を効率的に提供していくことには困難が伴うと思うが、カリキュラムの目的が達成されることを期待している。

#### 6. 関連科目

- ・いずれの科目も工夫をこらし、良い授業を構成されていると思う。
- ・多岐にわたる専門性の高い科目を揃えている点は大きな強みであり、高く評価できる。AI やデジタル技術を積極的に導入する一方でモノづくりの本質を守り、AI では代替できない価値を生み出す姿勢も今後重要になると考えるので、そのバランスを模索している点を評価する。またウェルビーイング、語学、生産管理、マーチャンダイジング論など、ファッションビジネスが多様化している今、幅広く学べる体制は非常に有益である。
- ・受講するクラスに合わせた授業の内容を考え、効果を見ながら毎回、工夫して授業を行っている姿勢が窺われ、大いに評価できる。
- ・より専門的で、即戦力になり得る学習内容の充実を感じた。英語でのコミュニケーションなど実際に将来必要になるので、引き続き強化していただきたい。
- ・関連科目はファッション知識の基礎・一般常識になる重要な学びであるので、学生の興味を保つような学びの場となることを願う。
- ・多岐にわたるテーマに共通して、学生に質の高い情報提供を行う姿勢と手法の工夫が感じられた。それぞれの工夫が目的（狙い）の通りの成果をあげられているかを検証し、継続的にカリキュラムの改善を行っていただくことを期待する。

### ③学外授業

#### [本学院の現状]

研修旅行・校外授業においては、各科からの希望研究内容をもとに検討し、企業、産地見学、展示会視察などを行ったほか、美術館や舞台衣装見学、優れた美術品や文化財に触れて感性や認識を深めるなど、それぞれの現状を知る機会の創出につながっている。

海外研修においては、例年実施しているパリ研修旅行に加え、韓国研修旅行も実施した。パリ研修旅行においては募集定員をはるかに超える応募者があり、参加者枠を増設することで対応した。一方、韓国研修旅行においては催行人数に満たなかった。両者とも研修内容は充実しているため、幅広い学科の学生が参加できるよう、告知方法や申込方法などの見直しを図っていく。

インターンシップ、企業研修については、受け入れ企業の新規開拓および受け入れ職種の見直しを行なった。また、事前教育における研修目的の理解促進、参加者の心構え、研修中のマナーの意識向上を図ることにより、トラブル防止につなげている。また、下級生に対してはインターンシップや就職活動早期化における情報の配信などを行なっている。

コラボレーションについては、パートナー企業や教員・学生双方にメリットがある企画であるかを精査した上で受託をする仕組みを導入した。コラボレーション件数は2023年度と同等件数を実施。ものづくりだけでなく、プロモーションやブランディングの分野でも実施し、また国内外の企業のほか、外資系企業の日本法人とコラボレーションも実現した。

各種コンテスト活動においては、教員や学生への情報発信、看板などの活用などにより学生の参加を促した。不明確な情報に対しては、学内担当者がコンテスト事務局と連絡をとるなど、事前に疑問を解決することによってスムーズな周知を行なっている。

#### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・工場や産地見学など貴重な体験が用意されており評価できると思う。
- ・インターンシップは50社の協力をいただけたということで、大変ありがたいことだと思うが、さらに協力企業を増やすためには、企業訪問による依頼しかないのかもしれないと思う。
- ・韓国研修はそのうちに定着するはず。韓国のファッションやコスメが日本のマーケットにどんどん進出しており、学生の興味をもたれることだろう。
- ・産学コラボは相変わらずすごい数。学科に偏りなく実施できていることは重要なことだと思う。
- ・コンテストについては、先生方の協力によって学生たちが安心して創作活動を行えると思う。大変だと思うが、今後もフォローを期待する。
- ・インターンシップは学生に現場での気づきや将来像を与えるとともに、企業にとっても新しい刺激となるものと想像でき、引き続き、企業開拓と周知を進めていただきたい。海外研修はグローバルな視野を育む貴重な機会であり、継続を強く期待する。学内外でのコラボレーションやコンテスト支援も適切に実施され、学生の挑戦意欲を高める仕組みが整っている点を高く評価する。これらの活動を通じて多角的な学びと成長の機会が今後さらに充実することを望む。
- ・インターンシップや国内外での研修、企業とのコラボレーション、コンテストなどに学生が意欲的に取り組める環境が整っている点が、大いに評価できる。
- ・全体的に充実度を感じた。昨年より評価点が上がったことについても、適切だと思う。

う。

- ・特にインターンシップで進路の適正が図れるので、期間や場所のメニューの充実化を願う。単に企業側の「無償のお手伝い」にならないように注意が必要。
- ・学生の参加を促す幅広い取り組みが実行され、魅力的に感じた。一方で、魅力的な選択肢を提示されるばかりだと、学生自身が自らのための選択肢を作り出す機会が失われることも考えられると思う。見学・研修などに参加し、刺激を受けることに向けた企画と、コンテストや学校行事など、学生が主体性を問われる機会を提供する企画と、授業の目的や効果を整理し、それぞれに特長を伸ばしていくことが望ましいと考える。

#### ④学校行事

##### [本学院の現状]

本学院では、文化祭をはじめ、新入生歓迎ショーや卒業制作発表ショー、展示、学内コンテストや針供養等、さまざまな学校行事がある。

文化祭では、2023 年度に引き続き、学生主体となって自由なクリエイティビティを発揮できる作品発表の場として開催した。プロのクリエイターに参加・協力していただくことにより、緊張感やイベント性が強くなり、学生にとって刺激につながっている。文化祭以外のイベントにおいても、学生が主体となる企画・実施となるよう、検討していく。また、イベントを実施する際には、登校日と休日のバランスが課題となるため、スケジュールなどに配慮して調整していく必要がある。

##### [学校関係者評価委員会からの提言]

- ・登校日と休日のバランスが課題となっているが、学生時代に困難なスケジュールをこなすことは、将来の役に立つのではないかと考える。教職員の方には改善が必要かと思うが、学生には思いっきりやりきる経験をさせてあげてもいいと思う。
- ・学内行事に学生が主体的に参加することが、非常によい効果をもたらしていると思う。行事も多岐にわたって学生の多くの機会が与えられ、社会性やチームワークの醸成にもつながっており、適切に運営されている。
- ・新しい手法で学生主体でイベントの内容を見直す姿勢は、評価できる。学校行事として、過密な日程にならないようにする配慮の必要性は理解でき、学生が達成感を体験できるようにバランスを考慮しながらスケジュールの調整を行ってほしい。
- ・「学生主体に」という点を評価している。
- ・文化祭をはじめ、学生主体の行事によって、社会性の適応が図れる良い機会。イベントと通常授業のバランス・調整は課題。
- ・前年度の反省、振り返りが生かされ、また新しい課題が発見される点検評価となっており、点検評価として望ましい印象を受けた。

#### ⑤課外活動

##### [本学院の現状]

学友会活動として、ドレスコートコンテスト、スポーツ大会、クリエイターズマーケット、節分・針供養、感謝会などを実施。すべての行事を大勢の学生が集う交流型の内容にアップデートさせ、活性化させた。

また、I 部学友会委員の研修会の充実にあたり、教育環境の改善を目的とした事前アンケートを実施し、事務局を交えながら議論を展開した。

ほか、サステナブル活動の取組として、文化祭において責任ある消費というテー

マのもと、パタゴニア社と共同プロジェクトを実施した。

#### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・研修については改善の余地があるようで、次期に期待したいと思う。
- ・学友会活動への主体的な関わりは、必ず社会に出てから仕事に生かされると思う。ぜひ、みなさんが大変ながらも楽しんで活動が続けていただけたらと思う。
- ・様々な活動が行われており、適切に運用されている。卒業生と学友会の繋がりを強化してみてもどうか。
- ・授業以外の多くの学びや経験が得られる場として、今時の学生気質に合わせた運営の更なる工夫に期待したい。
- ・評価点を下げているようだが、実りのある活動になっていることが伺えた。
- ・学外のサステナブルな取り組み・実践を強化しても良いのでは。ファッションの持続可能な方法など、深く考える良いきっかけとなる。
- ・点検評価における振り返りが適切に行われており、新年度に向けての課題が明確に設定されていることが印象的である。課題があることは問題ではなく、課題を解決し続けていくことが重要であり、ご担当者様の意識の高さを感じる。

#### ⑥教育・成績評価

##### [本学院の現状]

成績評価管理、評価名簿提出の徹底を行なっている。重要なデータに誤りがないよう、全データを書き出して確認するなど、エラーが出ない対策をしたほか、提出日についても厳密に管理を行なった。

一方で、各賞審査の選出に伴い、成績転記期間を早めたが、それによる課題も確認できたため、スケジュールの再検討をする必要がある。

#### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・確定していない成績が成績証明書に反映されるとのことだが、この項目の意味合いがよく理解できない。
- ・担当授業でも評価は難しいと思うが、評価と同時にフィードバックをすることが重要だと考えている。適切な評価体制の確立を期待する。
- ・学生カルテの運用時の不備への対応を進め、円滑な成績評価作業ができるように引き続き改善に期待する。
- ・課題や検討する点があるということで、評価は適切だと思う。
- ・成績評価のオペレーションの改善が必要。
- ・成績データは学生の利益と学校の評価に直結する、学校運営上非常に重要であるため、取り扱いについては常に慎重になるべきであると考え。システムの挙動への確実な理解と、誤登録・ご入力防止は別の課題だが、いずれにしても対策が必要であると考え。

#### ⑦退学者への対策

##### [本学院の現状]

退学者の人数や理由を学科別に集計し、資料作成、動向の分析を行った。2023年度に比べて退学者数は94名減少しており、全体の退学率は役2.5%減少した。特に1年次の退学率が減少した科が多く、学校定着率が向上した結果が出ている。

出席率が低下した学生への早期対応や、学習が遅れている学生への支援など、クラス担当と学生相談室や学生課等が連携することで、今後も退学者の減少に取り組んで

いく。

#### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・退学者数・退学率が減少したことは大いに評価できると思う。ただ、退学理由の学業不振の割合が増えている。昨年も記述したが、学校が対応できる退学理由はこれしかないと思う（健康上の理由や経済的理由には対応できない）ので、先生方のきめ細かい対応に期待する。
- ・退学者の減少という成果は大変評価できる。その背景には、理由の分析や丁寧なフォローアップの取り組みがあったと考えられる。入学者の確保が一層厳しくなる中で、入学から卒業まで学生をしっかり支えることが、学校運営の重要要素になってくと思うので、引き続き丁寧に対応されることを期待する。
- ・各科や授業単位でも出席率の低下への対応を強め、個別の学生へのヒアリングや相談体制を整え、学校を挙げて退学者減少に取り組み、一定の効果が出ている点は評価できる。引き続き、同校の分析と退学者減少の取り組みを続けてほしい。
- ・学生の個別差がある中、定着率が向上したという成果が素晴らしいと思った。
- ・退学者の減少が見られ、成果がみられた。継続して、学生に寄り添って進級・就職に向き合っていたいただきたい。
- ・定着率の向上について、継続的な取り組みの成果が評価できる。学業不振という退学理由についてはその増加理由や対応策について一層の分析・検討のうえ、対策していただくことを期待する。

#### ⑧学生募集

##### [本学院の現状]

入試制度改革により、2024年度入試（日本人対象）から、総合型選抜入試、指定校推薦入試の2つの入試を新たに導入した。また、これまで実施していた自己推薦入試では書類選考方式に、一般入試では学力試験を廃止し、面接試験のみとして、多様な学生を受け入れることを目的とした試験方法に変更した。さらに、学生募集時期を前倒しにする等、実施スケジュールを大幅に見直し、ほぼ年間を通じて受験生が入試にアクセスできるようにした。その結果、出願者数は2023年度比で+110名（日本人対象）となった。

広報活動としては、本学院入学者減少と18歳人口／服飾家政分野(東京都)入学者数比較分析(入学シェア率の検証)を行った上で、説明会イベントの一部内容の刷新を行った。また、大学競合対策として、入学案内所・サイト・リーフレットにおいて露出強化を図った。さらに、オンラインイベント・来校イベント・接触型ガイダンスにおいて検証を行ない、より効果的なイベントを説明会に組み込んだほか、動画・SNS・コンテンツの効果検証を行なった上で、本学院の付加価値を訴求するためのコンテンツ制作等、プロモーション・認知強化をしていく。

#### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・日本人、留学生ともに出願数が伸びており、評価できる。各ファッション専門学校では学生数が減少し、デジタル系の学科を増やすなど多角化で勝負しないと学生数を維持できていない状況に鑑みると、学院の取り組みは素晴らしいものだと感じる。
- ・SNSの活用がうまくいっている。これらは外部のコンサルの協力なども受けているのか。
- ・入試制度の早期化に対応した大幅な改革を行い、時代の変化に即した運用がなされている点を評価する。さらに多方面からの広報活動により、入学者確保に結びついている点も適切であり、今後の継続を期待している。

- ・総合型選抜入試制度など、学力試験を行わない新しい入試制度の導入と、学生募集時期の前倒し、各種推薦制度、留学生の受け入れ体制の整備、SNSの活用や来校イベントでの接触機会の増加など広報活動の改善を実施し、入学者の増加につなげて成果を出した点は、大いに評価できる。
- ・制度改革の成果が出ているようで素晴らしい。広報活動のSNSコンテンツについては、改善の余地がありそう。
- ・入試制度の改革の効果はみられ、今後の進級・就職率の動向の検証が必要。
- ・入試制度改革への対応が奏功しており、素晴らしい結果であると感じる。

## ⑨国際交流

### [本学院の現状]

法令に基づいた適切な留学生の管理を継続して行っており、東京出入国在留管理局留学審査部門より「適正校（クラスⅡ）」の選定を受けている。在留資格の取り消しや更新不許可となるケースがあったが、そういった学生は今年度減少した。問題発生率を減少させるため、出席率の低い学生に対してはメールにて注意喚起を行なっている。

本学院は中国上海と中国大連に提携校が2校あり、随時協議を重ね協力、連携し、概ね順調に運営されている。

ほか海外提携校と協力し、協働プログラムにおける学生・教職員の交流促進やサポートを行なったほか、コラボレーション企画における各国での巡回展示なども実施した。他、海外より講師を招いてセミナーやワークショップを行うなどの取組を行うなど、本学の国際交流事業を積極的に推進している。

### [学校関係者評価委員からの提言]

- ・海外の学校との連携は今後も活発に行うべき。グローバル社会と言われているが、日本のファッション産業はグローバルに展開できていない。御校での海外との関わりが将来の業界発展につながっていくと思う。
- ・海外交流事業は本当に充実していると感じる。もっともっと機会を増やし、留学生増につなげてほしい。
- ・留学生支援は教育面・生活面ともにきめ細かく実施されており、高く評価できる。学習支援や文化的な交流の場を充実させていることは、多様性を尊重する教育機関として大変意義深い。今後は日本人学生との交流機会をさらに増やすことで、相互理解を深めることが望まれる。
- ・留学生の学習環境を整え、受け入れ増加に対応している点、すみれ会による海外留学支援の実施、海外交流事業を充実させている点が、大いに評価できる。
- ・適切だと思う。留学のサポートなど、活動の成果を見てとることができた。
- ・法令に基づいた適正な留学生管理の継続。合作校・提携校との取り組み強化に期待。国際交流センターをさらに活用して、海外交流できる学生の増加に期待。
- ・現地現物に触れることだけでなく、オンラインや作品自体を通した国際交流にも意義があるように感じる。大掛かりな事業でコストがかかるものだけでなく、より頻度高く、交流機会を設けていくことも戦略かと考えるのでご検討してもらえたらと思う。

## 5. 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価委員会の委員の皆様には、ご多忙の中、委員をお引き受けいただき心より感謝申し上げます。

外部の方々から学校運営ならびに教育活動に関し具体的な評価を頂戴することは今回で 11 度目となります。今回はファッション業界における製造部門、人事部門、メディア部門、ファッションレンタル部門等の皆様から多岐にわたり、幅広い視野での提言を頂戴することができ、改めて外部評価の重要性を痛感しております。また、日ごろの文化服装学院の教育活動に対し、賛同と高い評価をいただき大変ありがたく存じます。

2024 年度文化服装学院自己点検・評価に対する学校関係者委員から頂戴した提言を今後具体的に活用するため、内部評価委員を中心に検討会を開催していきます。検討会では学校関係者委員からいただいた多数の提言のうち、横断的かつ早急に取り組む課題の共有を行い、次年度の目標とさせていただきます。検討会の結果は職員会議や文書で周知に努め、改善に取り組んでまいります。

本学院では創立 101 周年を迎え、永続的に教育活動を行っていくための様々な分野における再構築を進めております。今回頂戴したご意見はそちらにも生かす所存です。

今後とも自己点検・評価ならびに学校関係者評価を継続し取り組んでまいりますので、皆様方のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご尽力いただきました委員の皆様には改めて深く感謝申し上げます。



## 6. 学校関係者評価委員会開催日程

### 第一回

2025 年 7 月 16 日（水）16：00～17：00

場所：文化服装学院 C 館 4 階 C041 国際会議室

メンバー（敬称略・順不同）

委員：澤田勘志、木島 広、岡本真理子、小湊千恵美、前川祐介、河邑陽子

オブザーバー：相原幸子、朴澤明子、吉村香、早渕千加子、木本晴美、朝日真、  
高見澤ふみ、此村公子、佐藤雄太郎、久保田友、伊賀美咲、  
浜田法子、小林克也、渡井邦重、熊谷江理、飯島康志

配布資料：・2024 年度文化服装学院自己点検・評価

・文化服装学院 自己点検・評価

内部評価委員による評価表及び学校関係者評価委員による評価表

・学校関係者評価委員名簿

・2025 年度学校案内書／2024 年度学科一覧／2024 年度版学友会パン  
フレット

### 第二回

2025 年 10 月 8 日（水）16：00～17：00

場所：文化服装学院 C 館 4 階 C041 国際会議室

メンバー（敬称略・順不同）

委員：澤田勘志、木島 広、岡本真理子、小湊千恵美、前川祐介、河邑陽子

オブザーバー：相原幸子、朴澤明子、吉村香、早渕千加子、木本晴美、朝日真、  
高見澤ふみ、此村公子、佐藤雄太郎、久保田友、伊賀美咲、  
浜田法子、小林克也、渡井邦重、熊谷江理、飯島康志

配布資料：・文化服装学院 自己点検・評価

内部評価委員による評価表及び学校関係者評価委員による評価表